

鹿大広報

No.159

Feb/2002

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会

特集：「飛躍」



<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>



大学生活を振り返って

理学部 生命化学科 小出 理恵

大学に入学してまず、今までとの制度の違いにとっても驚きました。高校までは、時間割や授業科目など始めから決まっていることが当然でしたが、大学では取得しないといけない単位だけ決まっていって自分がどの時間に、どんな教科を入れるかは自主性にまかされていたからです。そして、鹿児島大学ならではの盛り上がりを見せる大学祭にも強い印象を受けました。非常に盛り上がっていて、毎年その雰囲気を満喫していました。

大学生活を振り返って、この4年間で過ぎるのはとても早かったと思います。特に、講座に配属されてからの1年間はあっという間でした。研究をしながら就職活動を行ったことも原因の1つでしょう。就職活動は、予想通りとてもきついものでした。しかし、希望の会社に就職が決まりほっとしています。あえて言うなら、サークルに入っておけば良かった、ということでしょうか。



大学で学んだこと

医学研究科 安田智嗣

4年前に大学院に入学し、いよいよ卒業の時を迎えました。無事にここまで来られたのは、佐伯教授、小林助教授を始め、多くの方々の御指導そして協力があってからに他なりません。また迷惑をたくさん掛けた家族にも感謝します。

この原稿を書くにあたり、長いようで短かった4年の間に、「一体自分は何を学んだのか？」と考えてみました。もちろん大学院には学位授与という目標がありますが、一番の大きな成果は、“研究者としての態度”を少しだけでも身につけることが出来たのではないかと思います。これは自分の出したデータに飽くまで客観的で、謙虚であるということです。実験を始めた最初の頃は、予想した結果が得られないとあまり深く考えず、また同じことを繰り返し失敗したものでしたが、なぜ予想した結果と反するのかを考えるうちに、自ずと道が開けました。この研究者としての態度は、生き方にも通じ、これからの人生でつまづいた時に私をしっかり支えてくれるものと信じます。大それたことを書きましたが、まだまだ学ばべきことは多くあり、社会人になっても謙虚に頑張りたいと思います。

「大学生活で得た事」

理工学研究科 永池 宏

長かったようで短かった6年間の大学生活が終わろうとしています。この6年間はこれまでの私の人生の中で最も変化の大きかった時間だと思います。勉強はもとより、生活するための自立やアルバイト、お酒の飲み方など多くのことを経験し学びましたが、そのなかで最も自分の財産になったものは人間関係です。必ずしも多いとはいえませんが、幸いにも良き先生方、友人、及び先輩や後輩に出会う事ができました。これらの人と築き上げたつながりは何物にも換え難いものです。これから進む社会においては、これまで以上に人間関係が重要となってくるので、広い人間関係を築いていく事が大切だと考えています。

これから社会に踏み出していくうえで、不安も多くありますが、それ以上に期待に胸を膨らませています。たとえ困難に直面したとしても、大学時代に得た経験を糧として乗り越えていこうと思います。

飛躍する君たちへ

医学部 医学科 飯田 啓太

最近、今だけに生きる人が多くなっているような気がします。それが、自分の意思か、社会の流れかは分かりません。確かに今しか出来ないこと、今やらねばならないことを精一杯やることも重要なことですが、これからは自分で自分の将来を考えていかねばなりません。当り前のことです。であるならば、自分の行く末を決定するに必要な決定も、自分で行わねばなりません。納得のいく決定は、十分な考察によりますが、十分な考察には、十分な量のそして正確な情報、自分で感じることも、他人の意見、その他様々な要素が必要になります。学問するのは当り前の学生の義務であり特権です。ならば、未熟であることも学生の特権です。激論を交わし喧嘩寸前まで熱くなることも、いろんな所に入り込んで体験することも全て学生の特権です。是非ともそういった特権を生かし、より多くの考察の機会を持てるようにしていきましょう。そうすれば、より多くの飛躍する方向性が見つかると思います。頑張ってくださいね。



卒業するにあたって

歯学部 歯学科 寺原 英子

早いもので、私が入学してから6年が過ぎようとしている。入学当時は6年間

という長い日々を思うだけで溜息が出そうであった。しかし、そう思っていたのもつかの間、すぐに勉学・部活動・アルバイトなどで忙しく過ごすこととなった。その日々の中で、社会の厳しさ、人の温かさ、人間関係の難しさ、そして自分の甘さなど多くのことを知ることができ、学ぶことができた。辛いことや楽しいことを経て精神的にも大きく成長できたように思う。また、この6年間で色々な事を学び、考え進みたい道を見つけることができた。卒業を控えた今、自分の中に理想はあるものの、中身は自分自身満足できるものではない。これからも多くのことを学び、吸収していき一步一步理想に近づけるよう日々努力していきたい。



老兵は消え去るのみ

医学部教授 滝川 守国

退官とは自然解任でヨボヨボ爺のイメージを払拭出来そうに無い。しかし、翁も風雪に耐えぬき何とか生き長らえたという意味では、お許し願えるかもしれない。

青年の上昇エネルギーには、敵わないかも知れないが、今後、翁として役立つことがあるとすれば、これまで、培ってきた「生活の知恵」から、時々スパイスをポケットから取り出して、何とかお役に立つように努めたい。

“Old soldiers never die just fade away”とか、彼のマッカーサー將軍は「消え去るのみ」といって退役したそうだが、私という老医も精神年齢で社会に貢献できればと思う。

自分のテーマは、精神医学であったが、21世紀は脳の世紀と謳われ、サイエンスの大きな要ともなってきた。

自分の軌跡は反省の軌跡ですが、脳という高次中枢には、興味がつきず、まだ在野の学徒と時には一緒に歩ける一瞬があればという心境です。皆さん有難うございました。



最近思う事

歯学部教授 小椋 正

2001年9月11日からはテロで開け暮れた大変な一年でした。テロは一部のを除いて容認する人は殆どいないでしょうが、民族間、宗教間の争いになればそう単純ではありません。

その証拠には、現在世界中の至る所で民族間、宗教間の争いを見る事が出来ます。宗教は人を救い人間の我儘を押さえ倫理感ある社会を作る事を目的としていると考えられます。それであるにもかかわらず宗教間での争いが実際に起こっているのは、不可解で在ると言わざるをえません。その理由は他を認めず自分らの事のみを優先させるためだと考えられます。そこで大切なのは他を認める寛容と協調の精神であると言う事が出来ます。21世紀の人間社会で重要なのは、自然との調和と他人を認める寛容と忍耐を持った話し合いと言う事が出来ます。もしそれを達成できなければ、人間社会は崩壊の危機を迎えると思わざるをえません。



感謝の気持ちで一杯です

医学部教授 宮田晃一郎

昭和33年鹿児島大学に入学以来、学生として6年、教官として35年、鹿大を中心に鹿児島で実に43年間お世話になりました。この間、医学部キャンパスの移転などもあり、総括的には誠に楽しく勉強できたことを心から感謝申し上げます。

苦い経験、苦しんだことも勿論ありましたが、先輩・同僚・若い学生達と共に学び、楽しく勉強できる工夫ができたことが多々ありました。それには、やはり自分自身と周囲の方々が健康に恵まれていたことも幸いでした。

大学は今や独立法人化のこと、21世紀COEプログラムのこと、大学院部局化、医歯統合病院のことなど、山積する重要な課題に日夜取組んでおられますが、若い教官や学生に明るい未来を拓くよい結果となることを念願しています。

鹿大で育てていただきましたことに深く感謝し、本学の益々の御発展を心から祈念いたします。今後も鹿児島でお世話になりますのでよろしくお願い申し上げます。



小鬼の反省

農学部教授 中西 喜彦

鹿児島大学に昭和39年に就職して38年間もお世話になり有難うございました。学園の草木や田圃の季節ごとの移り変わり、牧場や演習林での思いでが脳裏に焼き付き、ここに人生の大半を過ごせたことを感謝しております。

数年前、朝日新聞4月の学芸覧に「大学は鬼の住処で、学生さんは入学したらその鬼を探しなさい」という記事を見て、我が意を得たりと思いました。鬼と言うのは世間一般の金・名誉・地位と違う価値観を持って死に物狂いで何かを迫及する人種と考えています。しかし、その鬼達もだんだん居なくなってきました。現代は計量化の時代になって、地域への貢献度とかトップ30などの言葉が飛ぶ交うなど鬼も居づらくなって来ました。

ところで、38年間に鬼の巣穴の拡充にはつとめましたが、小鬼の反省としては絶対1位の信念で頑張らなかったことです。醜いあひろの子ではありませんが、真理の探求には30位でない1位と言う意識改革が必要だったと思っています。



職 名 教授
氏 名 岸 文 雄
(歯学部歯学科)
学 位 医学博士
生年月日 昭和29年2月23日
最終学歴 山口大学大学院医学研究
科生理系生化学博士課程
修了

前 職 山口大学助教授遺伝子実験施設

担当科目 口腔細菌学

【抱負】

自然科学の研究を通じた人類の福祉への貢献が目標。



職 名 助教授
氏 名 田 畑 純
(歯学部歯学科)
学 位 博士(学術)
生年月日 昭和36年4月28日
最終学歴 広島大学大学院生物圏科
学研究科博士課程後期修
了

前 職 大阪大学助手歯学部

担当科目 組織学・発生生物学

【抱負】

どうして歯は一度しか生えないのか？どうやって歯の形が決まるのか？こうしたことが研究テーマです。よろしくお願いします。

職 名 教授
氏 名 箱 山 晋
(農学部生物生産学科)

学 位 農学博士
生年月日 昭和21年2月10日
最終学歴 九州大学大学院農学研究科博士課程中退
前 職 独立行政法人農業技術研究機構作物研究所
研究交流科長
担当科目 熱帯作物学
【抱負】

熱帯地域も各々に地史、自然、歴史、文化の背景は異なる。各問題に適切な対処が出来る素養が育める教育・研究指導を目指したい。



職 名 教授
氏 名 馬 嶋 秀 行
(歯学部歯学科)
学 位 歯学博士
生年月日 昭和30年2月16日
最終学歴 日本大学大学院歯学研究
科博士課程修了

前 職 独立行政法人放射線医学総合研究所放射線
安全研究センター主任研究員

担当科目 歯科放射線学

【抱負】

21世紀を迎え、中央地方行政から地域発展行政へと移り変わりつつある。鹿児島が世界への発信基地となるよう努力したい。



職 名 教授
氏 名 山 下 喜 市
(工学部電気電子工学科)
学 位 工学博士
生年月日 昭和19年5月30日
最終学歴 静岡大学大学院工学研究
科電子専攻修士課程修了

前 職 (株)日立製作所・中央研究所技術主幹

担当科目 通信工学特論(院)、電波工学、電気電子工
学入門

【抱負】

光ファイバ通信やモバイル無線、それを支えるシステムLSIの研究を行うと共に、実戦的で自立した研究者、技術者の育成に注力します。

